

2022年産 大豆「シュウレイ」栽培こよみ

アルプス農業協同組合
アルプス農協管内農業技術者協議会

【目標】 圃地化率:80%以上 収量:200kg/10a 品質:1~3等比率と大粒比率の向上 「とやまGAP」の実施及び生産記録簿記帳100%

月別	4月		5月		6月		7月		8月		9月		10月		11月			
旬別		下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中					
主な作業	基礎排水		播種		出芽・苗立		生育期		開花期		着莢始め		莢伸長期		子実肥大期			
	H2O		除草剤散布		1回目培土		2回目培土		ウコンノメイガ		基本防除(1回目)		基本防除(2回目)		雑草の抜き取り			
栽培のポイント	①排水対策を徹底		②石灰質資材・堆肥等の積極的施用		③過剰施肥の防止		④極端に早い播種を回避		⑤播種時期に応じた適正な栽植本数の確保		⑥晴れ間を逃さず2回培土の実施		⑦病害虫防除の徹底		⑧開花期～9月上旬は早めの畦間かん水		⑨圃場のほとんどの莢が褐色になった頃を目安に刈取り開始	
	①排水対策を徹底		②石灰質資材・堆肥等の積極的施用		③過剰施肥の防止		④極端に早い播種を回避		⑤播種時期に応じた適正な栽植本数の確保		⑥晴れ間を逃さず2回培土の実施		⑦病害虫防除の徹底		⑧開花期～9月上旬は早めの畦間かん水		⑨圃場のほとんどの莢が褐色になった頃を目安に刈取り開始	

① 早期排水対策

地表排水が最も重要

排水口はしっかり止める
排水性は合わせて基幹排水溝を設置
畦間かん水時には開ける
排水口は確実に連結し、深く掘り下げる
額縁排水溝

排水対策の効果

- ・ 砕土率が上がり発芽・苗立ちが良くなる
- ・ 除草剤の効果が向上
- ・ 根量が増え、根粒菌も増える
- ・ 病害(茎疫病、黒根腐病)の発生抑制

② 土づくりと施肥

★地力の高いほ場では過剰な施肥を避ける。

- 大豆栽培に適するpH6.0～6.5を目標に必ず石灰質資材を施用する。
- 地力の低下を補うため、発酵鶏ふんを施用する。

資材名等	施肥量
貝化石(粒)	150～200kg
発酵ケイフン	100～200kg
BB基肥084	普通田 20kg
(N:P:K = 10:18:24)	砂壤土、低地力田 30kg
麦跡	上記 + 硫酸10kg

③ 種子消毒(病害虫防除の徹底)

対象病害虫	使用薬剤	処理方法
フタジヒメハムシ アブラムシ類 タネバエ ネキリムシ類 茎疫病 黒根腐病 紫斑病	クルーザーMAXX	塗液処理 乾燥種子 1kgあたり 原液8mℓ

④ 適正な播種作業で、苗立本数を確保

★極端に早い播種を避ける。

- 一連の作業は圃場が乾いた状態で、好天日に一気にやる。
- ※作業手順(施肥同時播種の場合)
耕起 ▶ 砕土・整地 ▶ 播種 ▶ 作溝

●適正栽植本数の確保
目皿とスプロケットの組合せを確認し、適正播種量を入れる。

★苗立数を確保する。

【播種量の目安】 条間80cm「シュウレイ」大粒種子(百粒重39.4gの場合)

目皿	播種時期	播種量目安(kg/10a)	目標栽植本数(本/10a)	スプロケット	
				目皿側	車輪側
B-3	5月6半旬～6月上旬	5.3～6.6	12,000～15,000	10～11	11
				11	13
	6月中旬～(麦跡等)	6.6～7.9	15,000～18,000	10	13～14
				9	14

※播種精度95%苗立数90%の場合

今年の種子は昨年より大きめです。

⑤ 雑草防除(除草剤散布)

農業使用基準を守りましょう。

散布時期	対象雑草	薬剤名	10aあたり散布量
播種後出芽前	一年生雑草	サターンバアロ粒剤	4～6kg
		サターンバアロ乳剤	600～1,000mℓ(水70～100ℓで希釈)
	一年生雑草 (ツクサ科、カヤツリグサ科、キク科・アブラナ科を除く)	トレファノサイド粒剤2.5	4～6kg
		トレファノサイド乳剤	200～300mℓ(水100ℓで希釈)
	一年生雑草	ラクサー乳剤	400～800mℓ(水100ℓで希釈)
		プロールプラス乳剤	400～600mℓ(水100ℓで希釈)
雑草生育期 (イネ科雑草の3～10葉期) (収穫30日前まで)	一年生イネ科雑草 (スズメノカタビラを除く)	ポルトフロアブル	200～300mℓ(水100ℓで希釈)
大豆2葉期～開花前 (収穫45日前まで)	一年生雑草 (イネ科を除く)	大豆バサグラン液剤	100～150mℓ(水100ℓで希釈)
本葉3葉期以降 雑草生育期(草丈15cm以下) 雑草茎葉兼土壌散布 (畦間・株間処理)(収穫30日前まで)	一年生雑草	ロックス	100～200g(水70～150ℓで希釈)
大豆5葉期以降雑草生育期 (畦間・株間処理)(収穫28日前まで)	一年生雑草	バスタ液剤	300～500mℓ(水100～150ℓで希釈)
雑草生育期 (畦間処理)(収穫28日前まで)	一年生雑草	ザクサ液剤	300～500mℓ(水100～150ℓで希釈)

※ロックス、バスタ液剤、ザクサ液剤は、大豆にかからないように注意して下さい。

⑥ 的確な培土

●晴れ間を逃さず確実に2回の培土を行い、根域を拡大し、湿害を回避する。

1回目: 播種20～25日後(本葉2～3葉期) 子葉が隠れる程度

2回目: 播種30～35日後(本葉4～5葉期) 初生葉が隠れる程度

～培土は株元に土をしっかりかけましょう～

良い培土 vs 悪い培土

⑦ 畦間かん水(開花期～9月上旬)

★早めの畦間かん水により干ばつを回避する。

- 開花期から9月上旬、3日間以上晴天が続いた場合、土壌の乾き具合に応じて適時かん水する。
- 圃場全体に水が行き届いたら水口を止め、速やかに排水する。

開花期 畦間かん水

⑧ 病害虫防除

農業使用基準を守りましょう。

★有効薬剤を適期に適正量を確実に散布する。

防除時期	対象病害虫	薬剤名	10aあたり散布量
基本防除	8月上旬	紫斑病 カメムシ類	トライトレボソ粉剤DL 3～4kg
	8月下旬	紫斑病 カメムシ類	Zポルトレボソ粉剤DL 3～4kg
液剤防除	8月上旬	紫斑病 カメムシ類	トライフロアブル ダントツフロアブル 1000倍 150ℓ
	8月下旬	紫斑病 カメムシ類	アミスタートレボソSE 1000倍 150ℓ
随時防除	7月下旬～8月上旬	ウコンノメイガ	ダントツH粉剤DL 4kg プレバソフロアブル5 ¹⁾ 4000倍 150ℓ
	8月下旬～9月中旬	ハスモンヨトウ	トレボソ粉剤DL 4kg トレボソ乳剤 1000倍 150ℓ

1) プレバソフロアブル5を使用される場合は展着剤を加用して下さい。

⑨ 収穫作業

【刈取り適期の目安】

圃場のほとんどの莢が褐色になった頃を目安に収穫開始

英色: 緑 → 黄 → 褐色

◎汚損粒は絶対に出さない。

- 青立ち株や大きな雑草は事前に抜き取っておく。
- 露がなくなってから刈取る(午前10時～午後4時まで)。
- 刈取り高さは地際から10cm以上とし、土を掻き込まない。

⑩ 次年度大豆作付圃場の準備

- 額縁排水溝の設置や心土破碎を行う。
- 緑肥作物の作付により地力増進を図る。
- 連作を避け、圃地化を進める。

※安全安心な大豆を生産・販売するために、『生産記録簿』は全て記入して、各営農経済センターへ提出して下さい。